

中学3年生の卒業までの過ごし方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)栃木県の県立高校入試まで1か月ほどありますので、今回は「中学3年生の皆様の卒業までの過ごし方」について少しお話をさせていただきます。

2. 学校時代の友達は一生の友達、学校時代の先生は一生の恩師

(1)私は、中学校時代の友達は一生の友達であると思っています。また、中学校時代の先生、特に3年生の時の担任の先生は一生の恩師であると考えています。そこで、入試には直接関係しませんが、卒業までの1か月と少しの間に、今まであまり話をしたことのなかったクラスの友達と一度ゆっくり話をして仲良くなるのも一つの過ごし方であると思います。

(2)卒業後は、それぞれがあちこちに散らばって別々の人生を送ることになります。しかし、一度同じところで勉強し仲良くなった者同士は、離れ離れになっても友情はずっと続いていくということが多々あると思います。インドにも「目には遠いが、心は近い」ということわざがありますので、卒業までの1か月少々の間にあまり話をしたことのなかったクラスメイトと一度ゆっくり話をしてみてもいいかなと思います。

(3)クラスの中にはグループなどができていて、一度も話をしたことの無い人もいることでしょう。そのような人と、一言でもよいから言葉を交わしておくことをお勧めします。「今日はよいお天気だね」「最近は何をしているの」など、内容は何でもよいのです。言葉を交わしておくことで印象深くなりますので、ぜひお勧めです。

(4)中学校時代のクラス担任の先生は、一生の恩師といえます。各科目を教えて下さっている先生やその学校にいらっしゃる先生はすべて恩師です。保健室の先生や事務の方も、いろいろなことでお世話になっている方々です。その方々も含めて一度も話をしたことの無い方とゆっくりお話をし、あるいは一言でも言葉を交わすことは、中学校3年間のうちの最後の1か月間の一つの過ごし方であると思いますので、ぜひ実行して下さい。

(5) 中学校卒業後は、高校に進学される方もいれば就職される方もいると思います。高校卒業後も、大学・短期大学・専門学校等に行かれる方、あるいは仕事に就かれる方といろいろでしょう。大学卒業後に大学院に進む方もいらっしゃいますね。それぞれの学校にはクラスメイトや恩師がいらっしゃるし、職場にもそれらにあたる方々がいらっしゃると思います。

(6) ただ、中でも一番なじみが深く、思い出も多く、それらが強烈な印象として残っているのは、中学校の頃だと思います。小学校 5・6 年生の時のクラスメイトや先生方のことをよく覚えている方もいらっしゃいますが、何十年経っても明確に記憶に残っているのはやはり中学校の時のクラスメイトや先生方だと思いますので、「中学校時代の友達は一生の友達。中学校時代の先生は一生の恩師」として仲良くしていただければと思います。

3. 中学校卒業までの学び方

(1) ところで、中学校卒業後は多くの方が高校に行かれます。県立高校の一般入試まではあと 1 か月ほどですが、既に入試を終えた方もいらっしゃると思いますので、その方たちの入学までの過ごし方について少しお話いたします。

(2) この期間、一般入試に臨む受験生の皆さんは合格に向けた勉強に励んでいます。ですから、既に入試を終えた方も、同じ時間を勉強に費やす必要はないと思いますが、できれば県立高校を受験するつもりで勉強に時間を割いていただきたいと思います。

(3) どのようなことをすればよいかというと、中学校 3 年間にあまり勉強しなかった科目をもう一度やり直すのも一つです。また、得意なので中学校 3 年間の学習内容はすべて習得したという科目については、高校で使う教科書や易しい参考書を用いて高校の勉強を始めるとよいと思います。入学前にできるだけ予習をしておけば、高校の授業にスムーズに取りかかることができるからです。

(4) これらを行っても時間はかなりあるでしょうから、読みたかったのになかなか読めなかった本をゆっくり読むのもよいと思います。それから、新聞を毎日読む習慣もつけていただきたいと思います。

(5) お気づきの方も多いでしょうが、最近は大人も子どもも誰もかもが新聞をあまり読まなくなってしまうました。新聞は、30 分、1 時間と時間をかけて一面からじっくりと読み進めれば、世の中でどのようなことが起こっているのか・この後どのようなことが起こるのかを知ることができます。また、人生相談のところを読むと、世の中にはいろいろなことで苦しんでいる方がいらっしゃるし、その問題の解決方法を示す先生もいらっしゃるということがわかります。やり取りを読むだけで、さまざまな人生があること・人生にはいろいろなことが起こることがわかり、興味深いと

共に非常にためになります。

(6)加えて、新聞には本を紹介する欄や投書欄もあります。投書を読むと、同年代の方々がどのようなことを思っているのかがわかり、1つの事柄についていろいろな立場の人が意見を述べていることもわかります。

(7)また、新聞記者の方は厳しい目で社会を見て記事にしますから、それらを読むと批判的思考能力が身に付きます。ですから、新聞をゆっくり読むことをお勧めします。

4. おわりに

今日は、中学校を卒業するまでの1か月間の過ごし方についてお話しさせていただきました。

- 2010年11月18日 林明夫記 -